



# 自治連だより

第22号



会長 渡邊勘治郎

新年明けまして  
おめでとぅございます

皆様には、本市自治連事業へ多大なるご支援ご協力を頂き、また各地区の様々な自治会活動と住み良いまちづくりにもご尽力を頂いており、深く敬意を表し心より感謝を申し上げます。

昨年秋に発生した鳥取中部地震は、県内中部に甚大な被害をもたらしましたが、鳥取県ではいち早く災害対策本部を立ち上げられ、あらゆる分野の支援策を順次実行に移され、多くの市町村も被災地の支援に積極的に対応されました。これは、県下の災害時の対応能力が高まっている証ではないかと心強く感じたところです。

しかし、山間地の多い鳥取市では、震災時には道路が寸断して集落が孤立し、家屋倒壊、停電、断水等に見舞われ、進入路がないため救援の手が届かない地域も出て来ることが想定されます。このような時に頼れるのは、日常的に交流のある近隣の地区民や地域のコミュニティ組織しかないと思えます。そのためにも、町内(区)会組織をより充実し、地域の絆を強化することが必要と思えます。

本年は、鳥取市の中核市移行の諸準備も終わり、誘致企業の操業も順次開始され、新市庁の設計も固まり、鳥取市の発展に一段と拍車が掛かってくる年ではないかと期待しています。

会員の皆様には、本市自治連合会の活動により一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。単位自治会・町内(区)会の発展と皆様のご多幸をご祈念申し上げます。年頭のご挨拶いたします。

## 久松地区

### 仲間づくりで 笑顔に!

住みよい久松地区をつくる会  
事務局長 濱本健一

久松地区まちづくり協議会は、住みよい安全なまちづくりを目指して平成二十一年六月に町内会長会及び地域の各種団体が中心となって「住みよい久松地区をつくる会」を設立しました。

「住みよい久松地区をつくる会」は「生活安全部会」・「健康福祉部会」・「文化教養部会」・「次世代育成部会」の四部会をつくり、町内会長会をはじめ各種団体がどこかの



久松公園周辺の清掃

部会の構成メンバーとして所属するようにしました。

活動としては、事務局・各部会で協議して各種団体の活動をこれまで以上に充実させ、さらに、あらたに事業をおこなうことを中心にまちづくりを実施しています。その中の活動の一部を紹介します。

「ふれあい広場」と称して一年に二回、久松公園付近を掃除しています。小学生から大人まで沢山の人が参加していただき、多い時は約三百人近くにもなり、久松公園の中から周りの道路まで大変きれいになり気持ちがいいです。掃除が終了してから、ラジオ体操・歌を歌って解散になります。

また、東日本大震災が起こった後、この大震災の鎮魂の気持ちで鳥取の地から発信できないかと思ひ、「久松山を考える会」を中心に平成二十三年から、八月に久松山頂に『大』の文字と年末・年始にかけて久松山二ノ丸の城壁に漢字一文字を点灯しています。久松山頂の



久松山頂の『大』文字

『大』文字を点灯するには、事前の草刈から『大』文字の形をとるまで相当の苦労が要ります。『大』文字の一边の長さは約二十mで『大』文字全部にLED電球約千五百個を灯します。

各種の活動をするには、やはり公民館が活動の拠点となります。それには、魅力ある事業を計画し、公民館に地域の人に沢山来ていただき、お互い知り合いになり、楽しく笑顔で会話できるよう公民館を拠点として仲間づくりを進めたいと思ひます。



河原地区

いなば西郷  
むらづくり協議会

の活動

いなば西郷むらづくり協議会  
会長 前田伸一

西郷地区は、鳥取市の南部に位置する中山間地域で、人口は四百四十八世帯千二百四十五人（平成二十八年四月現在）で高齢化率三十九%の中山間地域です。いなば西郷むらづくり協議会は、設立にあたって住民のワークショップを五回（延二百六十五名参加）開催するとともに先進地の視察を実施し、平成二十一年十二月に設立、会員は地域住民と活動に賛同する者とし、広報・福祉・文化・環境・農林の五部会で構成しています。



カジカガエルとホタルを楽しむ会

いなば西郷むらづくり計画を平成二十二年十一月に、第二次計画を平成二十七年四月に作成し、西郷地区の全世帯に配布するとともに、いなば西郷むらづくりだよりを年数回発行して地域住民に活動の紹介や報告をしています。主な事業は鳥取市修立地区との「まちむら交流事業」、集落をギャラリーに見立て、自然・歴史的建造物や特徴のある民家、創作作品を展示する「ギャラリーあつちこつち」、「西郷保育所給食食材供給」、「西郷地区敬老会」、地区のシンボリックな高山の「登山道整備（北村集落との共同作業）」、ヤマメのつかみどりや溪流体験の「西郷川遊びデー」、「河川美化活動」などの恒例事業をはじめ、女性で構成する踊りのサークル「チームあまんじゃく」の活動、協議会を母体とした西郷農地水まもり隊による「多面的機能直接支払交付金事業（西郷地区全集落対象）」などの事業も実施しています。



西郷まるごと川遊びデー

皆さんもご存じのように、西郷地区には牛の戸焼・因州中井窯・やなせ窯の三窯元と木工芸の「工房このか」、ガラス工芸の「ukaironish」があります。この資源を基に「いなば西郷工芸の郷構想」を作成し、「一般社団法人西郷工芸の郷あまんじゃく」を設立、地域の特色を生かして持続可能な地域の創生を目指します。その内容は①工芸の郷拠点施設の運営②共同体組織による農業の活性化③既存施設や自然資源の利活用④老人福祉施設の運営（地域住民による地域の老人の介護）⑤地域の特産品の開発・販売などに取り組んでいきます。そして本年十月二十九日には「第一回西郷工芸祭り」を開催し、地元をはじめ近隣の工芸作家の作品展示と販売、

窯元巡り（バスが巡回）のイベントを実施し、多くの皆さんにご来場いただき、地区の魅力を満喫していただきました。

青谷地区

人の輪で  
伝統を守る

青谷地区自治連合会  
会長 浜江康雄

青谷地区の九箇所の町内会では、重要無形民俗文化財である「因幡の菖蒲綱引き」が、それぞれの町内会ごとに、旧暦の端午の節句の前後の土曜日、もしくは日曜日に行われている。

私が住んでいる本町区では、綱引きの前日に本和会（町内会の壮年部）のメンバーが、綱を編む材料となる茅・蓬・菖蒲を刈りに行く。また各家庭では、茅・蓬・菖蒲で作った束を屋根に上げる。当日は、小・中学校の子ども達が棒や竹竿を持ち、町内会の家々を回り、屋根に上がっている束を集めて集会所へ持ってくる。集会所では本和会が中心となり、荒縄を芯にして子ども達が集めてきた束や、前日に刈り取った物を織



菖蒲綱引き

り込んで綱を編んでいく。綱が編み上がると子ども達は、綱の前側を男子、綱の後側を女子が持つて町内を回り、家々の前で綱引きを行う。この因幡の菖蒲綱引きは、菖蒲が「勝負」「尚武」につながり、子ども達の健やかな成長を祈る大切な行事である。しかし近年、子ども達の人数が激減し、それとともに綱の長さも年々短くなっている。少子高齢化が進めば進むほど、一人ひとりの果たす役割が大切になってくるものと考えられる。町内会にある組織を見直し、立て直し、人と人とのつながりを深めていくことが地域に伝承されてきた文化を守り育てていく原動力になっていくものと考えられる。

津ノ井地区

みんなで汗をかこう

ボランティア活動

津ノ井地区自治会

会長 福田正美

空山（標高三四〇m）のすそ野に広がる津ノ井地区は鳥取市の南部に位置し、地区内には保育園、小学校、中学校、工業高校、近隣には環境大学、また、津ノ井駅南には工業団地を抱え国道二十九号線バイパスが通る鳥取市の重点地区として発展しています。団地造成による新しい町区（集落）も生まれ、人口も増加中です。一方古くからの集落では少子高齢化の傾向も見られます。

現在、雇用促進住宅団地を含め二十町区約千五百六十世帯三千九百人の地区です。津ノ井地区の事業も慰霊祭、敬老会、納涼祭、運動会や文化祭など他地域と同じような行事を行っています。春に行う津ノ井小学校の全校生徒による空山遠足は創立記念日の四月二十八日に行われ保護者をはじめ地区住民も参加する百二十年以上、今も続く伝統行事です。



空山の全景

この遠足の前にはPTAが空山広場の草刈りをして登りやすいように整備してくれました。また、六月下旬には自治会、区長会で草刈り作業を行ってきました。

地区のシンボルである、空山は津ノ井村時代から開発の話がありました。平成二十五年の事業計画でウォーキングロード整備の意見がまわり、自治会、まちづくり協議会が中心となり地区民、地権者の理解と協力のもと事業に着手し、その年の十一月には完成式を迎えることができました。

この事業は空山農場と、果樹園の管理道を活用して、頂上付近の広場から鳥取県営牧場の上、風力発電風車が三基設置してあるところまで、全長八〇〇mの山林を切り開き

ウォーキングができるように歩道の整備をしました。

あれから三年経過しましたが、頂上から一望する景色は市街地、鳥取砂丘、日本海を望み素晴らしい眺めです。

空山広場とウォーキングロードを守るために、まちづくり協議会が中心となり自治会、区長会、各種団体の有志約六十人が六月と十月、年二回の草刈り作業をおこないます。重労働ですが登山道が荒れないように頑張って維持管理を続けています。

香取集落の意上奴神社入り口に駐車場があります。そこから頂上の風車まで約五kmあります。天気の良い日に弁当を持ちゆったり、のんびりと歩いてみるのも気分転換になるのではないのでしょうか。



空山広場の草刈り

楽しかった町内会長研修会

容姿で完全に勝っているからいいようなものの、瞬時に参加者を引き付け、笑いの中で感動もさせる明穂先生の話術には、多少の嫉妬心さえ感じるようだった。七月十四日、わらべ館の会場は、約七十名の町内会長等でビッシリ埋った。「あなたの足腰健やかに」と題し、いきなりバタバタ足踏みすることから始まった。

「ご存知の通り、「他の医者でダメなら明穂に行け」と言われるくらい、先生は外科の名医なので「健康は他人から貰うもの、ではなく自分が作り上げるもの」の言葉はいいとしよう。でも、物事の「明るい面、良い面」を見てゆくと長生きが出来るのか、自分の見方を変えることで相手は素晴らしい人になってしまう、などという話は宗教家のようでもあり、「あれ、先生は切った張ったの外科医さんなの」と疑いたくもなる。

多くの参加者が、一度や二度先生の話を聞いていると言うが、毎回話の内容が変わり、楽しく「又聞きたい」と評判がいい。もっとも「感動した、良かった」と言いつつ三十分後には内容を全て忘れていた。次回は「聞いた事を忘れない方法」で講演してもらおう。大笑いし寿命が一年伸びた。渡邊会長は十倍笑われたから十年は長生きされる。会長ポストを狙っていたが当分望めまい。会場を出てゆく皆さん、全員笑顔でした。

（文責 中嶋大地）



町内会長研修の様子





ランドデザイン作成委員会の様子

鳥取市の西、湖山池の南の地域を湖南と呼ぶようになったのは、ここに吉岡小と大郷小の二小学校が一つになり、昭和三十三年に湖南小学校が出来た頃からである。そして、この地区の区長会等各種団体が組織化され、湖南地区自治会が成立したのは、つい最近の平成二十七年で、これからは、「湖南は一つ」の合言葉の下に力を合わせ、さらに発展していくよう努めなければならない。

**湖南地区**

奥座敷としての  
賑わいを再び

湖南地区自治会  
山本憲二郎

幸いにも、平成二十九年度に鳥取西道路が開通し、吉岡温泉インターも出来るので、それを生かして湖山池南岸の整備と開発構想をこれまで以上に進めていきたい。

その取り組みの一つとして、ランドデザインの作成がある。これまでに六回の委員会を開き、湖山池からのサイクリングコース構想・町並み整備・秋葉山の整備・空き家活用・ホームページの立ち上げなどを進めようとしている。又、その取り組みの一環として、吉岡の新しい温泉会館の建設もある。これも建設・運営委員会を七回設け、鳥取市の支援を受けながら、二十九年度に完成予定である。

平素、温泉町はより多くの方に温泉の恵みを味わっていただくために足湯の出前をし、周りから慕われる町づくりをして、再び鳥取市の奥座敷としての賑わいを取り戻したいと考えている。このことは鳥取県の地方創生の一助にもなるのではなからうか。



公民館まつりの時の足湯

面影地域は、北側に袋川・南側に大路川の両河川に挟まれた面影山の周辺に位置している。戦前よりほとんどが専業農家で、この山を中心に田畑が広がる自然豊かな山村であった。面影山は、天平時代「因幡三山」の一つで、「大和三山」の「天香久山」に似ているとして、万葉歌人や国司達は、都に残された妻子の「おもかげ」をしのんだといわれる古歌が残されている由緒ある風光明媚な地域である。

昭和三十年九月旧面影村を構成していた七町区で、面影地区自治会が結成されました。その後、面影山周辺の田畑は宅地造成が進み、各エリアごとに町内会を立ち上げ八町区の町内会が加わって、十五町区三千世帯・七千二百名の大規模自治会に至っている。

近年の核家族化や少子高齢化の進展を始めとする社会経済環境の急速な変化は、私たちの生活に大きな影響を及ぼしており、住民の価値観や生活様式の多様化が進んでいる。これに伴い、地域社会における連帯意識や繋がりがといった古くからの良き風習が希薄化している。このような環境のな

**面影地区**

住みたいまち。  
住んで良かった面影  
をめざして

面影地区自治会  
会長 須崎宏喜

か、東日本大震災を始め各地で発生する自然災害から住民参加による日常コミュニケーション活動の必要性や地域の絆の大切さがクローズアップされている。時 同様に、桜ヶ丘中学校の教育方針の一つとして「子供たちの地域との関わりを維持強化すること、豊かな人間を育てる」が打ち出された。

当自治会は、こうした状況の中で構成する十五町区とともに「住みたいまち・住んで良かった面影」を目指して、人と人は勿論町区間のコミュニケーションの強化のため、各種団体により中学生の参加・協力を得ながら、各事業を実施している。

自治会主催の主な年間事業は、表のとおりである。

今年度の主な事業として、一月一日新年互礼会で新年を祝いスタートし、四月に戦争犠牲になられた地区出身五十八柱の英霊の慰霊祭と偲ぶ会、五月に地区大運動会で幼児から高齢者まで楽しめる個人種目・地区対抗種目で町区間ふれあいの大イベントである。昨年健康増進を兼ねた新企画で年二回の地区GG大会で個人戦・町区対抗戦を実施。八月の地区夏祭りのオープニングでは中学生の「よさこいおどり」の参加で例年以上のにぎわいを見せ延べ二千

**年間事業計画**

一月一日	地区新年互礼会
四月	慰霊祭・偲ぶ会
五月	地区大運動会 地区春期GG大会
八月	地区夏祭り 夏休み宿題教室(3回)
九月	地区防災避難訓練 地区敬老会
十月	地区秋期GG大会 公民館祭
十一月	面影山遊歩道 保全作業

名の参加を得た。今年の新企画で小学生の夏休み期間中三回の宿題教室を実施し百名近くの参加者があり保護者からも喜ばれた。九月に地区敬老会は、今年一〇六回目と連続で開催出来た素晴らしいこと、対象者の方々が楽しみにお待ちイベントである。十月に公民館祭で屋内に絵画等の展示・芸能披露・抽選会、屋外にバザー・もちつき・そば打ちの実演・試食、地区外(佐治町)のかせぎ集落から農産物等の販売と交流を深める二日間の大イベントの一つである。

また年間を通して、避難行動要支援者制度の推進活動・青パトにより子供たちの下校に合わせて、地区内パトロールを行っている。今後各事業の充実を図り「安心・安全で暮らしやすい」まちづくりに取り組んでいきたい。



敬老会

夏祭り



千代水土手作業

千代水地区は現在七町内約五百世帯で自治会活動を行っています。安長町内会（約八十世帯、二百五十人程）の特色ある活動について紹介させていただきます。安長には十三世紀末に作られた土堤防と約五百本の樹木に囲まれた約七百mのひと続きの樹林帯として奇跡的に残る、安長土手（嵐ヶ鼻土手とも言う）が存在しています。平成四年にはタブノキ、ヤブツバキ等が鳥取市指定保存

千代水地区

**地区の宝の維持  
管理活動について**

千代水地区自治会  
会長 **西尾志郎**

樹木に指定され、さらに平成二十五年には土木学会選奨土木遺産に鳥取市初に認定されました。このような貴重な財産を何十年にもわたり維持管理してきたのが安長町内会です。毎年夏に全戸参加し、東西に分かれ、草刈機、鎌、鋸、剪定鋏等で下刈り、枝打ち、倒木等の始末の作業を行っています。

一時期には、通行出来ない程荒れ果てた状況の時もありましたが、住民の努力により、現在の遊歩道の姿になりました。しかし古木が多い為、台風の後などには多くの枯枝等が落ち、その都度近所の住民、ボランティアの人、町内会役員等が、処理出来る物については行い、高所等に引っかかっている倒木等については、通行に危険のある場合、鳥取市と相談し対応していただいています。この貴重な財産を守る為、安長住民は安長の宝として又、鳥取市の宝として今後も維持管理に努め、周辺住民の散歩道として守って行きたいと思っています。四月頃には椿の花アークードが見られます。市民の皆さん是非見に来ていただき、この土手を守ってきた安長住民の活動を少しでも感じていただければ幸いです。

## 平成28年度 全国自治会連合会 宮城県仙台大会に出席して

杜の都宮城県仙台市の11月10日、仙台国際センターにおいて参加者920名が集う全国大会が開催されました。

オープニングは小学校合唱団の児童合唱に始まり、第1部式典では、鈴木全国自治会連合会長の挨拶のあと、宮城県知事と仙台市長から歓迎と震災復興支援に対するお礼の言葉がありました。多年にわたり住民自治の振興発展に寄与された97名に対して全国自治会連合会表彰が行われ、来賓祝辞では高市総務大臣から、敬意と感謝の意を表する旨が代読されました。大会宣言では、住民自治のさらなる発展と未来に誇れる地域社会の創造を目指し、目標達成に努める旨の宣言案が満場一致で採択されました。平成27年秋と28年春の叙勲受賞者14名が紹介されたあと、次期開催地を代表して松浦副会長（大阪府）から歓迎の挨拶があり第1部を終了しました。

第2部活動発表は、全国7つのブロックから、各テーマを掲げ特色ある活動事例が発表され、「防災・防犯・交通安全・見守り支え合い・地域の魅力づくり」等多岐にわたる事例で自治会の役割の大きさを再認識しました。



第3部交歓会では、魅力満載の郷土芸能と料理のもてなしがあり、歓談と情報交換をし、有意義なひとときでした。

翌日は、仙台市内の震災対策津波タワーや震災慰霊碑・復興メモリアル交流館・被災校舎・防潮堤防の建設状況等の現地視察に参加。この2日間を通じて得たことは、どこの自治会ともその活動に真剣に取り組んで、確実に成果をあげられており、大いに参考にすべきと触発されたことでした。

（報告 大西隆秀）

倉田地区

倉田地区は、概ね千代川の右岸、八坂山の西側で倉田小学校を中心

倉田地区は、概ね千代川の右岸、八坂山の西側で倉田小学校を中心



倉田地区運動会

倉田地区は、概ね千代川の右岸、八坂山の西側で倉田小学校を中心



倉田地区文化祭



平成二十八年度三市姉妹交流会報告

平成二十八年九月二十八日(水)岡山市連合町内会

平成二十八年九月二十八日(水)岡山市連合町内会

平成二十八年九月二十八日(水)岡山市連合町内会

平成二十八年九月二十八日(水)岡山市連合町内会



後記

「自治連だより」第二十二号は、八地区の地域活動を

(広報委員長 村上誘子)